

2024年3月期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2024年5月15日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2024年3月期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	24年3月期	24年3月期	対前四半期	23年3月期	24年3月期	対前年度
	3Q	4Q				
売上収益	2,620	3,221	+601	12,821	10,766	▲2,055
営業利益	▲650	439	+1,089	▲990	▲2,527	▲1,537
マージン	▲25%	14%	+38pt	▲8%	▲24%	▲16pt
当期純利益	▲649	103	+752	▲1,381	▲2,437	▲1,056
マージン	▲25%	3%	+28pt	▲11%	▲23%	▲12pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	833	816	▲17	4,182	3,461	▲721
PPA影響額 ^{3, 4}	▲4	▲3	+1	▲316	▲63	+253
法人所得税費用	▲266	69	335	▲483	▲996	▲513

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第4四半期におけるEBITDAは、営業利益439億円で減価償却費及び償却費816億円を加算した1,255億円となりました。当連結会計年度におけるEBITDAは、営業利益▲2,527億円で減価償却費及び償却費3,461億円を加算した934億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。
4. 営業利益からPPA影響額及びその他の一過性の損益を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成

績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第4四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益439億円からPPA影響額▲3億円を除外した442億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益103億円からPPA影響額▲3億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて105億円となりました。当連結会計年度におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲2,527億円からPPA影響額▲63億円及び受取保険金76億円を除外した▲2,540億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲2,437億円からPPA影響額▲63億円及び受取保険金76億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲2,446億円となりました。

ハイライト (1/3)

2024年3月期通期業績

- 年度後半はフラッシュメモリメーカー各社の生産調整等による需給バランス改善から回復基調が鮮明となるも、年度前半までの大幅な販売単価下落の影響により、通期では減収減益となった

足元の実績及び動向

	24年3月期 3Q	24年3月期 4Q
出荷量 ¹ (QoQ)	横ばい	1桁%台後半の 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	10%台前半の 上昇	10%台後半の 上昇

- 第4四半期連結会計期間は、需給バランス改善による販売単価上昇が進み、前四半期比で増収となった
- 販売単価の上昇とこれに伴う棚卸資産評価損の減少が寄与し、前四半期比で営業利益及び当期純利益ともに増益となり黒字転換した
- ドルベースの販売単価は20%前後の上昇となった

1. 記憶容量ベース

ハイライト (2/3)

製品開発・技術開発

- 小型化および性能向上した、最新世代UFS 4.0フラッシュメモリ製品をサンプル出荷、モバイル機器のユーザー体験向上に貢献
- CBA（CMOS directly Bonded to Array）技術の採用により飛躍的な性能、密度、コストを実現した第8世代のBiCS FLASH™の初期生産を開始

ハイライト (3/3)

市場動向及び見通し

- フラッシュメモリメーカー各社による需要動向に沿った生産や需要の回復により、需給バランスは改善し販売単価は引き続き上昇している
- PC及びスマートフォン向け需要は、顧客の在庫水準の正常化により回復しており、今後、オンデバイスAIの登場、メモリ搭載容量の増加及びPCのオペレーティングシステム更新に伴う買い替え需要も期待される
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、今年後半に向かって回復傾向がみられており、AI用途での高密度・高容量のSSDなどによる今後の需要増加が見込まれる
- AIの普及及び搭載容量の増加傾向によるフラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての見方に大きな変化はない
- 需要動向に沿った生産と販管費の最適化を今後も継続する

KIOXIA